



## 福井県立美術館ボランティア

### ～楽しくつづけるボランティア～



福井県立美術館ボランティアは、平成8年にスタートし、現在は20人で活動しています。当時は、インフォメーションでの来館者対応、展示会場での監視補助をしていましたが、現在は図書や新聞情報などの整理を行う「新聞班」と、来館者と美術館をつなげる役割を担う「ウェルカムスタッフ班」に分かれて活動しています。

この日は新聞班の活動日で、約10名が集まりました。新聞班の中でも役割はいくつかあります。毎月全国の美術館から届く図録を、都道府県別・美術館別・大学別に整理する班や、全国版・福井版の新聞の美術に関する記事をスクラップして整理する班です。これらは、学芸員さんが美術館で実施す

る企画を考える際、参考資料などになるそうです。

メンバーの構成は、発足当時から関わっている方や大学生など、多世代にわたります。活動のきっかけは、「美術に関心がある」「ボランティア活動をしてみたい」「時間に余裕ができたから」などさまざまです。新型コロナウイルス感染対策として、消毒やマスク着用、距離をとるなど、基本的なことを配慮しながら活動を続けています。

メンバーは、「県内のいろんな場所で、美術に親しみを持てる機会が増えている。その中で、自分たちも何かお手伝いできることがあれば」、「一人で黙々と作業するよりも、みんなで顔をあわせながらするのがやっぱり楽しいし、続けられる。」と、笑顔で語ってくれました。



## 自由研究「社南地区の福祉」 もっとみんなに知ってほしい



森 悠さん（社南小4年生）は、夏休みの自由研究で「社南地区の福祉」についてまとめました。前期の総合学習の時間に、お年寄りや目の不自由な方の福祉を勉強したことで、自分が住んでいる地区にどんなバリアフリーがあり、どんな工夫がされているのかももっと調べたい！と関心が深まったという森さん。福井駅前の音響信号やみどり図書館内エレベーターの点字表示を見つけただけでなく、数日に分け地域を歩いたり、福祉委員の奥田さんにインタビューをして社南地区社会福祉協議会の活動など話を聞きました。

今回、実際に見て歩き、エリアによって点字ブロックの設置状況が違ったこと、近くの郵便局のポスト投函口に点字表示があったことなど、分かったことや感じたことは、写真を入れて報告。また、一人暮らしをしているお年寄りの人数や、奥田さんが福祉委員として心がけていることなどインタビューした内容もレポートにまとめ、お年寄りや目の不自由な方が安心して暮らせる工夫を紹介しています。

自由研究を通して森さんは「初めて奥田さんの活動を知った。50人のお年寄りにお弁当を届け、見守りをしていることはすごいと思った」、「クラスでは自由研究で調べたことを発表し合っただけで、もっと多くの人に社南地区の福祉を知ってほしい」と話してくれました。

